

2019年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

今年度も、5領域それぞれの重点項目に対して各2つずつ計10の達成目標を掲げて取り組んだ。重点項目の内容は、平成30年度末の反省と学校評議員の意見を参考にし、より現実的・具体的となるよう設定し取り組んだ。評価結果は、Aが5、Bが1、Cが4となった。

『学習活動』「①学習時間の確保、1週間あたりの家庭学習時間を各学年平均600分以上」については、第3学年の生徒の進路意識が低く、1学期に目標を達成できなかったのが響いた。一方、第1、2学年は前年度を上回った。また、実態調査では時間の記入だけでなく、生活の流れを記入させることで時間の使い方について個別に助言することができた。

『学校生活』「②自己肯定感の向上、自己肯定感の点数が向上した生徒の割合」については、心の健康セミナー、こころとからだの講座等、自己肯定感を向上させる企画を実施したが、点数が実施時期や学年によって大きな違いは見られなかった。長い目で生徒の意識を変えていくことが必要だと分かった。

『その他（地域・家庭との連携、生徒寮生活）』「②生徒寮における効果的な学習活動の過ごし方」については、生徒寮の利点を生かし、分からない箇所を学び教え合う「学び合い教室」を実施し、集中した学習活動の取り組みの下支えとなった。

学校評議員からは、学習意識を高めるためには第1学年のうちから進路意識をもたせ、早い段階で目標を設定させることが大切であるという意見や、昔と比べ精神的に弱い生徒も増えてきているようだが、行事等のいろいろな体験を通して成長させてほしいとの意見をいただいた。他にも、地域・保護者と教職員とが連携した活動、少人数教育、生徒寮等、他校にない特色をとおして教育効果を上げているとの評価をいただいたことから、重点目標に対する総合評価は、「ほぼ達成した」と言える。

7 次年度へ向けての課題と方策

重点課題や達成目標については、学校評議員等の意見を踏まえて再度検討する。特に『学習活動』と『進路支援』の両方に関連する「第1学年のうちから進路意識をもたせ、早い段階で目標を設定させることが大切である」という意見については、進路学習のしかけと生徒への継続的な問いかけを組み合わせることで、進路に対する意識を高めるようにしたい。また、毎日行っている生活状況調査表をもとに1週間の生活の流れを振り返らせた本年度の試みを生かし、よりよい方策を考えたい。

学校生活については、学校不適応や心の悩みを持つ生徒が増えている現状に対し、スクールカウンセラー等外部専門家の協力も得ながら、自己肯定感を高める企画を次年度も継続する。

本校は小規模校であり、そのメリットを最大限に生かせるよう、全教職員で意見を出し合い、学校全体で共通の指導の下、生徒一人ひとりに「生きる力」を身につけさせたい。そして、「南砺平高校生であることを誇りに思える」学校生活を送ることができるよう努めていきたい。

(様式5)

8 今年度の重点課題 (学校アクションプラン)

2019年度 南砺平高等学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習活動	
重点課題	学習に取り組む態度の育成および教師の指導力の向上	
現状	<ul style="list-style-type: none">・基礎学力が不足しているため、教科内容の習得に時間がかかる生徒がいる。・学習する目的が明確でなく、課題への取り組み・提出に問題がある生徒がいる。・家庭や寮での学習量や内容が不十分で、十分な態勢で授業や考査に臨んでいない生徒もいる。・教員の年齢層が大きく2つに分かれており、両者について授業における指導力の向上が必要である。	
達成目標	①学習時間の確保 ・生徒の1週間あたりの家庭学習時間 (家庭学習には放課後に自主的に行う学習も含む) ・各学年平均600分以上	②生徒の授業への意欲の向上 ・真面目に取り組んでいると回答する生徒の割合 (各学期末に取り組み状況を調査) ・各学年90%以上
	方 策	<ul style="list-style-type: none">・生徒が取り組みやすい課題内容や生徒個々に合わせた課題レベルを検討し、家庭で学習する習慣を身につけさせる。・学習・生活実態調査を通年実施し、指導・助言を行う。・調査結果を考査ごとに共有し、意識付けを図る。
達成度	1月末まで 第1学年 521分(前年度470分) 第2学年 510分(前年度475分) 第3学年 584分(前年度873分) 平均 538分(前年度606分)	2学期末調査結果 第1学年 95%(1学期末91%) 第2学年 90%(1学期末89%) 第3学年 100%(1学期末90%) 平均 97%(1学期末90%)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none">・学習・生活実態調査を通年で実施し、各自の学習時間を意識させ、担任から指導・助言を行うとともに、全体に対しても集会で学習時間の少なさを訴えた。・実態調査で学習時間の記入だけでなく生活の流れを1週間書かせ、時間の使い方について個別に助言した。・今年度の第3学年は進路意識が低く、1学期は目標を達成できず、2学期に入りやっとやる気が出ていた。1、2学年も定期考査前後以外は十分でなかった。	<ul style="list-style-type: none">・6月の学校訪問、年2回の互見授業週間で見学した教員が良い点、気がついた点を伝え合うなどし、教員の授業改善につなげた。・2学期からタブレットが導入され、教員が授業での利用について試行錯誤を繰り返し、生徒の興味・関心を引く授業を研究した。・定期考査で思考力問題を出题したり、授業で積極的にグループ学習を取り入れたりするなど生徒が積極的に考える機会を設定した。
評価	C	A
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none">・生徒の学習意欲向上のためにも1年次から進路意識を高め、早い段階で進路を決定することが大切である。・時間だけでなくそれぞれの進路(進学・就職)に応じた学習内容の指導が必要なのではないか。・生徒に個人差があると思うので、個別指導が重要だと思う。	<ul style="list-style-type: none">・進学希望から就職希望までいろいろな生徒がいるので、学習意欲に差がある中、先生方がよくやっている結果だと思う。・進度が遅いと感じている生徒がいることから学力差の解消のために下位層の学力の向上が必要である。
次年度に向けての課題等	<ul style="list-style-type: none">・生徒の状況に応じた個別の課題を与えたり、一人一人に応じた時間の使い方を助言したりするなど全体指導だけではなく、個々に応じたきめ細かな指導を充実していかなければいけない。・卒業後の進路を早期に意識させることが今年度の課題であった。1、2年の段階からも面接等を継続的に行い、外部模試の受験を促し、自分の現状を知った上で家庭学習に繋げていきたい。	<ul style="list-style-type: none">・タブレットやICT機器の効果的な利用について、互いの授業見学や他校での取り組みを参考するなどして研究を重ねていくことが必要である。・授業の進度が遅いと感じている生徒が4割近くいる。生徒の意欲をさらに向上させるために生徒の理解度に合わせた授業展開を再検討し、授業改善に繋げていかなければいけない。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

2019年度 南砺平高等学校アクションプラン - 2 -

重点項目	学校生活																	
重点課題	安全な学校生活と心身の健康について																	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車や徒歩による登下校時の交通ルールに対して、安易な行動が時々見受けられる。 ・周囲には商店や高校生が利用できる施設等も少なく、スマホや携帯といった通信機器に依存し、トラブル等に巻き込まれやすい環境にある。 ・生徒数が少ないことにより、人間関係が深いものとなりやすく、ささいなことから人間関係のトラブルやいじめにつながりやすい。 ・精神的に弱い生徒、悩みを抱える生徒が増加傾向にある。 ・保健室利用者の中には、身体的な症状での来室以外に、学習や部活動、友人関係等において悩みを抱え、自己に否定的な感情をもった生徒が相談に訪れることが多い。 																	
達成目標	①悩みを相談しやすい学校づくり ・個人面談の回数	②自己肯定感の向上 ・自己肯定感の点数が向上した生徒の割合 (自己肯定感を点数化できるチェックシートを5月と1月に実施)																
	・年5回以上	・50%以上																
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から声がけをし、悩みを訴えやすい雰囲気づくりに努める。 ・定期的に面談をする計画を立てる。 ・スマホの使い方も含め、いじめの加害者にならないような講座を企画する。 ・何かあった場合の対応策について周知を図り、迅速に対応できる体制を整えておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年のHR活動に、悩みへの対応の仕方や良好な人間関係のつくり方等についてスクールカウンセラーの講義を取り入れる。 ・生徒厚生委員会の活動として自己肯定感を向上させる工夫などを調べ、文化発表会や学校保健委員会で発表する。 ・保健室来室者の心身の状況、欠席状況などを観察するとともに情報の共有を図る。 ・全教職員が連携、協力して教育相談・健康相談にあたる。 																
達成度	1学年6回、2学年5回、3学年6回の全員個人面談を実施することができた。また、悩みを抱えている生徒に対する声かけや相談等も日常的に行うことができた。	自己肯定感チェックを年4回実施(6・9・12・1月) 6月と1月の結果を比較して、 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>向上した</th> <th>変化なし</th> <th>低下した</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1学年</td> <td>44%</td> <td>9%</td> <td>48%</td> </tr> <tr> <td>第2学年</td> <td>46%</td> <td>12%</td> <td>42%</td> </tr> <tr> <td>第3学年</td> <td>38%</td> <td>7%</td> <td>55%</td> </tr> </tbody> </table>		向上した	変化なし	低下した	第1学年	44%	9%	48%	第2学年	46%	12%	42%	第3学年	38%	7%	55%
	向上した	変化なし	低下した															
第1学年	44%	9%	48%															
第2学年	46%	12%	42%															
第3学年	38%	7%	55%															
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・考査前面談や科目登録の面接などに合わせて実施した。また、普段から生徒との良好な人間関係が築かれており、生徒同士のトラブルにも迅速に対応することができた。 ・生徒会でスマホ使用の規則を作ったり、ネットトラブル防止教室を開催したりして、ネット上でのトラブルを減らすことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感とは24の質問のうち、自分にあてはまる項目をチェックする方法で調べた(自己肯定感が高いほど、チェック数が多くなる)。チェック数の平均は10～11であり、実施時期や学年によって大きな違いはなかった。 ・心の健康セミナー、こころとからだの講座、ヤングヘルスセミナー、スクールカウンセラーによる講座、生徒厚生委員会による発表を実施した。 ・教職員間で、教育相談、健康相談内容の情報共有に努めた。 																
評 価	A	C																
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも生徒と教師の良い関係を築いていていただきたい。 ・スマホ依存は最近大きく取り上げられる問題であり、引き続き指導してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昔と比べ、精神的に弱い生徒が増えてきているように思う。生徒と教員との信頼関係を築き、生徒に向き合っていく取り組みを続けてほしい。 ・生徒がスクールカウンセラーに相談しやすい環境を整えることは大切である。 																
次年度に向けての課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも悩みを相談しやすい雰囲気づくりに努め、トラブル時に迅速に対応できるようにしていきたい。 ・スマホの使い方についても継続的に指導していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回指導員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーからの助言や指導を受けながら、全教職員が連携、協力して教育相談・健康相談にあたる。 ・スクールカウンセラーの配置時間が少なく、一人一人に十分な時間をかけることができない。 																

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

2019年度 南砺平高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援	
重点課題	進路意識の高揚および生徒個々の希望進路に応じた力の育成	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・進路先が大学から就職まで多様で、学力差も大きく、十分な対応ができていない所もある。 ・社会情勢に疎い生徒が多く、毎日ニュースを見る生徒は50%程である。 ・外部模試は、年間3回受験してきた。今年度は従来受験してきた記述模試を希望制とし、新たに基礎力診断テストを1・2年生で全員受験とし、生徒の基礎学力の判断指標とする。 ・検定試験として1年生に実用英語技能検定(10月)、2年生に日本漢字能力検定(2月)を全員受験とし、他の回は希望制とする。昨年度の漢検・英検・数検の延べ合格者数は20名であった。 	
達成目標	①一人一人に対応した進路指導の充実 ・進学・就職の第1志望の進路先の合格率 ・80%以上	②基礎学力の充実 ・各種検定の延べ合格者数 ・30人以上
	<ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンス、卒業生と語る、オープンキャンパスやインターンシップを通して、進路意識の向上を図る。 ・基礎学力の状況、学習習慣などを外部模試や検定を通して把握し、個人面接を利用した的確な進路決定を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・検定試験(漢字、数学、英語)を合わせて5回実施する予定である。 ・1年生は10月の実用英語技能検定、2年生は2月に日本漢字能力検定を全員受験する。クラス全員で合格に向けて取り組むことで、クラスの学習に対する意識と基礎学力の向上につなげる。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・進学・就職の第1志望の進路先の合格率 83%(24名/29名) 	検定合格者 32人 ①実用英語技能検定合格 10名 ②日本漢字能力検定合格 7名 ③実用数学技能検定 5名 ④世界遺産検定 10名
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・6月から「3年生8限補習」を実施した。3年生全員に指導担当教諭を割り振り、進路希望先合格に向けて、個別学習指導、小論文・作文指導を実施した。 ・進路ガイダンスを6月に実施し、大学～専門学校、就職に関する模擬授業や講演を行い、進路について意識を喚起した。 ・2学期には、明確化した進学・就職先に対応した教科指導、小論文・作文、面接指導を全教員が担当し、指導した。これは、2学期末考査まで継続して、行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ①実用英語技能検定は1年生は全員、2・3年生の希望者が受験した。それぞれ各自で取り組んだ。 ②日本漢字能力検定は、2年生は全員、1・3年生の希望者が受験した。 ③実用数学技能検定は希望者が受験した。 ④世界遺産検定は、地歴・公民科で募集をかけたところ希望者がおり、実施することにした。問題集を購入し、自学自習で取り組んだ。 実用英語技能検定は10月に1学年が、日本漢字能力検定は2月に2学年がクラス全員で取り組む検定となっている。検定間近になると、休み時間や自習時間を検定の学習に取り組む生徒の姿も見られるなど、学習に対する雰囲気も良くなっているクラスもあった。
評 価	A	A
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生全員に担当教諭を割り振るという手厚い指導は素晴らしい。 ・1年次から進路意識を高める進路指導を実施したらどうか。きめ細やかな進路指導をすることが、学習時間の増加につながるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・検定受験を希望する生徒が多く、良い状況である。 ・検定合格を褒めることも大切である。全校集会などで賞状伝達をするなど、褒める方法についての工夫をしてはどうか。
次年度に向けての課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学推薦入試において、従来は小論文・面接が主流であったが、「高大接続改革」により、学科テスト・面接へと変化している。私立大学においても、学力重視の傾向が強くなっており、次年度に向けて、受験に対応できる学力向上を図る必要がある。少しでも早く進路希望先を確定させ、その対策を練る必要がある。 ・対策として、進路希望調査の4月・10月実施、進路面談の充実、大学進学希望者への2年3学期からの早期特別補習、効果的な外部模試の実施計画の改正、3年間を通しての進路計画の策定を行う。 ・スキ一部のように長期間学習指導がしにくい生徒への指導のあり方が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種検定の取得の効果として、第一に検定取得のための学習を通して、生徒の自学自習の習慣をつけることができること、第二に社会に評価される検定の取得は、進学や就職に有利に作用すること、が挙げられる。本校の場合、進学希望者が多く、漢検・英検・数検が主な検定であり、今後も継続していく。 ・就職希望者向けには、これらの検定以外の検定にも挑戦させることを検討していきたい。例えば、秘書検定やビジネス実務マナー検定などを実施し、就職者が働く現場で生かせる検定を受けさせていきたい。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

2019年度 南砺平高等学校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動	
重点課題	特別活動の充実および読書習慣の定着	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・小中高合同運動会、球技大会、ボランティア活動、文化発表会など、生徒会が積極的に取り組んでいる行事が多い。しかし、行事に意欲的に参加できない生徒が増加傾向にあり、活動の一体感が不足しているといった問題がある。満足度調査では、昨年度、満足度の総合4.0を超える生徒は44%であった。 ・生徒の活躍する場面は多いが、生徒が学校では楽しいことや打ち込めることがあると答える生徒の割合が減少傾向にある。 ・部活動の兼部制度が変更され、新しい部もできたばかりで、生徒も先生も、活動内容、活動時間など慣れないところを抱えながらの出発となっている。 ・年間で一冊も本を読まない生徒が4割を超えており、生徒の読書離れが懸念されている。 ・図書館の蔵書冊数が他校に比べて少なく、十分とは言えない状況である。 	
達成目標	①学校行事、生徒会行事への満足度 ・各行事の満足度を5段階で調査し、総合が4.0を超える生徒の割合 ・60%以上	②年間3冊以上の本を完読する生徒の割合 ・70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自主性を生かし、積極的に参加できるように指導する。 ・多くの生徒が活動に参加、あるいは興味をもてるように行事を計画する。 ・リーダー研修会や生徒議会などを通してリーダー性や積極性を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書週間を毎学期実施し、生徒全員が読書に取り組める機会を設ける。 ・「図書室だより」の発行や「購入図書調査」を通して委員会活動を活性化し、読書への関心を高める。 ・図書室と学級文庫の蔵書を充実させる。 ・図書の配置を工夫する。
達成度	満足度総合評価が4.0以上の生徒は48%であった。 内訳：1学年16%、2学年55%、3学年64% また、全体平均は3.7であった。 項目別では、運動会と球技大会の評価が高く、マラソンと対面式の評価が低かった。	年間(2019年4月から2020年2月までの期間)で、3冊以上の本を完読した生徒は43%であった。 内訳：1学年44%、2学年44%、3学年41% 1冊以上3冊未満の生徒が41%、0冊の生徒は15%であった。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの対象行事は、対面式部活動紹介、運動会、マラソン大会、球技大会、文化発表会、百人一首大会で評価は5段階とした。 ・夏季休業中に1、2年生を対象にしたリーダー研修会を実施し、2学期からの生徒会行事の中心として行動していく心構えを養成した。また、文化発表会では、生徒全員に役割を与えて主体的に関わるように生徒会執行部が計画を立てた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2学期に朝読書週間を実施した。出張図書として教室の前に何冊か本を置き、貸し出しができるようにした。表紙が見やすいように展示を工夫した。2学期の期間中は図書室の開放時間を8:00~16:45まで延長した。 ・読書週間後に読みたい本のアンケートを実施し、生徒の関心をもとに選書を行った。 ・7月、12月に図書だよりを発行し、本を紹介した。 ・図書室前に新着図書の一覧を掲示した。
評 価	C	
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の意識が変わってきているのではないか。1年生にも主体的に取り組めるようなプログラムをやってみればよい。 ・5段階のうち4の評価を達成目標とするのは高いと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書は好きでなければ時間もかかるので、嫌いな生徒に勧めるのは大変かもしれない。 ・新聞から定期的に記事を取り上げ、それについて議論をするなどして、活字を読む習慣をつけてはどうか。
次年度に向けての課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・例年通り、2、3年生の評価が高く、1年生の評価が低い。1年生も主体的に取り組めるような意識付けをしていきたい。 ・マラソン大会は、つらくて人気のない行事であるが、走り切ったという達成感が持てるように指導していけばよいと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体として、図書室を利用している生徒が少ない印象があった。読書週間で開放時間を延長したものの、あまり効果は見られなかった。ただ開放するだけでなく、利用するきっかけづくりが必要である。また、生徒が読みたくなるような魅力ある選書に努める。 ・図書だよりや掲示物、本の展示の内容を充実させ、読書に対する興味を喚起したい。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

2019年度 南砺平高等学校アクションプラン — 5 —

重点項目	その他(地域・家庭との連携、生徒寮生活)	
重点課題	教育活動への理解を深める情報発信の強化	生徒寮における効果的な学習時間の過ごし方
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 各種「たより」は定期的に発行されており、「学校だより」は12月と3月に平・上平地域全戸に配付し、広報活動を行っている。また、本校のHPにも掲載している。 本校の様子を本校HPに適宜掲載しているが、閲覧する保護者の数が少ない。 <p>《昨年7月の調査結果》 ほぼ毎月見ている・・・19% 数ヶ月に1回見ている・・・39%</p>	<ul style="list-style-type: none"> 寮生による自治運営も浸透しており、規律正しい寮生活はそこそこできているため、学習時間はだいたい自分の席で学習をしている。 毎日の学習時間にメリハリがなく、また、2時間という学習時間が、意欲が低い生徒にとっては苦痛の時間帯となる場合がある。
達成目標	①HPを閲覧する保護者数の増加 ・HPを毎月閲覧すると回答する保護者の割合(学期末保護者会時に調査) ・50%以上	②集中した学習活動 ・学習時間を集中して取り組んでいると回答する生徒の割合 ・70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 本校のHPに学校行事等の記事を1ヶ月に一度以上掲載し発信する。 更新状況を保護者にPRする。 学期末保護者会で、各月にHPを訪問した回数、記事を調査する。 各種「たより」の発行も従来通り行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に全体での学習会を設けたり、学習意欲を高めるための催し物を企画したり、グループワークを試みたりし、学習時間帯がマンネリ化しないように、学習時間にメリハリを持たせる方策を寮生と共に考え実行する。
達成度	2学期末保護者調査結果 HPを月に1度以上閲覧する・・・45% HPを学期に1度以上閲覧する・・・68%(上記を含む)	学習時間集中度調査結果 <ほぼ集中していると回答した生徒> ・第1回目4月調査 97% ・第2回目7月調査 91% ・第3回目12月調査 76% <全体平均 88%>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事、生徒会行事、部活動等の記事を4月から1月の9ヶ月間に毎月1回以上更新し、計54回更新することができた。 教育安全メールで月ごとの行事等を保護者に配信する際、本校HPへのリンクをはり、閲覧しやすくした。 各学年担任からもHPを閲覧する保護者が増えるよう呼びかけた。 昨年度の「ほぼ毎月閲覧する、数ヶ月に1度閲覧する・・・計58%」から判断すると、今年度の「学期に1度以上閲覧する・・・68%」は昨年度よりもHPを見てもらっている状況と考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 月に1回の割合で寮生会議を開き、寮生に学習時間が集中できる対策やアイデア等を出させ、寮生と協議して良い案を取り入れた。(学習時間中のスマホの扱い等の約束)また、集中して取り組んでいる寮生の取り組み方を紹介し、集中できない寮生への参考とさせた。 学習時間のマンネリ化を防ぎ、効率の良い学習を実施するため、「学び合い教室」(平日1時間、考査発表時から終了時は2時間の内、参加時間は自由)を行った。食堂を開放し、学年や性別の壁を越えて、分からない箇所を教え合う機会とすることができた。 学習時間を利用して、「人生講話」を実施し、学習時間にメリハリをつけた。今回は学校長が将来に向けて必要なことや大切なことを話した。
評 価	B A	
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> PRを続けていけば閲覧数は増加してくるのではないか。学校の知名度とともに増加してくると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学び合い教室の取り組みはとても良いので継続してほしい。 生徒寮内の規律が生徒の自律に役立つと思う。
次年度に向けての課題等	<ul style="list-style-type: none"> 保護者からは「更新の頻度を上げる、早める」「年間、月間行事」「生徒が活動(授業、部活動、日常生活)している写真」「生徒の作文、意見」などの掲載の要望がある。部活動顧問、生徒会委員会の各顧問など、教員が様々な情報を提供し、HP担当教員に掲載を申し出る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習時間の集中度調査結果は、生徒による申告のため、当日の舎監が見た様子とは多少差があるように思われる。今回の結果に甘んじることなく、更に集中できる環境や方策等を寮生と話し合い改善していく必要がある。 3学期の数値が下がった理由としては、3年生が進路が決まり、あまり集中して学習しなかったからである。そのため、現在は学習時間の内容は授業に関するものだけとしているが、学習する分野や内容にもっと幅をもって、本人の興味関心がある分野を更に掘り進めたりし、学習時間の充実をはかる必要があるように思える。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)